

■ 麻疹とは

麻疹は麻疹ウイルスによって生じる急性の全身感染症であり、空気感染（飛沫核感染）、飛沫感染、あるいは接触感染することで、非常に強いヒトからヒトへの感染力を持ちます。免疫を持っていない人がこのウイルスに曝露されるとほぼすべての人が感染すると考えられています。ワクチンによって予防が可能で、1歳児と小学校入学前1年間の小児を対象に計2回の定期接種が行われています。

■ 臨床経過

潜伏期間は10～12日間（最大21日間）で、発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れます。この時期に頬の内側に小さな白い斑点（コプリック斑）が出現することがあります。発熱は2～4日続き、この期間を前駆期（カタル期）と呼びます。この期間の感染力が最も高いと言われています。その後いったん熱が下がり、再び39℃以上の高熱と発疹が出現します（発疹期）。発疹出現後、発熱は3～4日間で解熱し、全身状態や元気が回復します（回復期）。合併症が無ければ症状は7～10日で回復します。

一方で肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。その他の合併症として、10万人に1人程度と頻度は高くないものの、麻疹ウイルスに感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもあります。

また、妊娠中に麻疹にかかると流産や早産を起こす可能性があります。

■ 治療

麻疹ウイルスに対する特別な治療法は無く対症療法が行われます。ワクチン接種歴が不明な場合や未接種の場合は、早期（接触後72時間以内）に麻疹ワクチンを接種することで発症予防が期待されます。また、生後6か月未満の乳児や免疫のない妊婦などには、医師の判断で免疫グロブリンの投与が行われることもあります。

■ 発生状況

麻疹は、平成19年ごろに10～20代を中心に国内で大きな流行がみられましたが、追加のワクチン接種を受ける機会を設けたことなどで、平成21年以降10～20代の患者数は激減しました。

平成27年3月27日、世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本が麻疹の排除状態にあることが認定され、現在は海外からの輸入例と、輸入例からの感染事例のみを認める状況となっています。

京都府でも散発的に発生が報告されています。

■ 海外での流行状況

厚生労働省検疫所 FORTH は 2025 年 3 月現在、麻しんは“世界中で流行している感染症”として、海外渡航者には渡航前に麻しんの予防接種歴の確認と、接種歴がない場合は接種の検討を呼び掛けています。なお日本国内における麻しん患者の推定感染地域（2025 年第 1 週～第 10 週）は多い順にベトナム、タイ、パキスタン、フィリピン、イタリア/フランスと報告されています。アジアではインドやアフガニスタン、インドネシアも麻しん報告数の多い上位 10 国に挙がっています（FORTH, 2025 年 3 月）。またアメリカ疾病予防管理センター（CDC）は 2025 年 4 月 4 日、アメリカ国内の年間感染者数がすでに 607 人に上っていると警鐘を鳴らしています（2024 年は年間合計 285 件）。最新の情報については下記ページをご確認ください。

▶ 麻しん（はしか）は世界で流行している感染症です | FORTH

https://www.forth.go.jp/news/20250319_00001.html

▶ Measles Cases and Outbreaks | Measles (Rubeola) | CDC

<https://www.cdc.gov/measles/data-research/index.html>

■ 京都府の麻しんワクチンの接種状況（2025 年 3 月現在）

麻しんウイルスは、「基本再生産数（ R_0 ：免疫を持たない集団の中で、1 人の感染者が平均して何名の二次感染者を発生させるかを推定した値）」がインフルエンザ（ R_0 1-3）等に比べて高く（ R_0 12-18）、世界保健機関（WHO）はアウトブレイクを防ぐうえで集団における麻しんワクチンの 2 回接種率を 95% 以上に保つ必要があるとしています。厚生労働省の発表では京都府の 2023 年度の麻しんワクチン 2 回接種率は 91.1% でこの基準を下回っています。全 2 回のワクチン接種が未完了の人はこの機に接種完了をご検討ください。

▶ WHO Immunization Agenda 2030: A Global Strategy to Leave No One Behind
P.21

https://cdn.who.int/media/docs/default-source/immunization/strategy/ia2030/ia2030-draft-4-wha_b8850379-1fce-4847-bfd1-5d2c9d9e32f8.pdf?sfvrsn=5389656e_69&download=true

▶ 麻しん風しん予防接種の実施状況 | 厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou21/hashika.html>

■ 麻疹患者と接触があった（疑いがある）ときは

最終接触後3週間（21日間）の間に症状（高熱・発疹・咳・鼻水・目の充血等）が現れた場合は、必ず事前に医療機関へ電話で連絡し、麻疹（はしか）の疑いがあることを伝え、医療機関の指示に従って受診してください。なお、受診の際は公共交通機関の利用を控えてください。

なお、麻疹ウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています（Remington PL, et al. *JAMA*. 1985）。それ以降に麻疹患者が利用した施設や公共交通機関を利用しても感染の心配はありません。